

（重症左室肥大を伴う大動脈弁狭窄症における左室流出路中隔心筋切除術の有用性） に関する 研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2018年10月16日～ 2019年3月 31日

〔研究課題〕

重症左室肥大を伴った大動脈弁狭窄症の手術治療は大動脈弁置換だけで良いのか？－左室流出路中隔心筋切除術の意義－

〔研究目的〕

重症大動脈弁狭窄症は左室肥大を合併し、左室流出路狭窄や左室肥大による拡張障害をきたします。その様な場合は大動脈弁置換術を施行しても左室流出路狭窄が残存してしまうために術後に心不全の改善が得られないことがあります。その様な重症大動脈弁狭窄症に対して大動脈弁置換術に左室流出路の中隔心筋切除術を追加することが有用であるかどうかを検討します。

〔研究意義〕

左室流出路中隔心筋切除術は閉塞性肥大型心筋症に対する手術方法ですが、似たような病態である重症大動脈弁狭窄症において併用することは一般的ではありません。よって有用性が確立されれば術後心不全からの改善が得られる症例が増えると思われます。

〔対象・研究方法〕

2000～2008年に、重症大動脈弁狭窄症により生体弁の大動脈弁置換術手術を本学附属病院で受けた方。その中で術前に心不全入院歴と左室心筋肥大があり、1年後まで心臓超音波検査による追跡が可能であった患者様が対象です。以前のカルテ記載からのデータを使用し研究解析いたします。

調査項目：年齢、性別、体表面積、高血圧、糖尿病、慢性腎不全、NYHA、手術術式、人工弁の種類、サイズ、人工心肺時間、大動脈遮断時間、術前及び術後1ヶ月、6ヶ月、12ヶ月後体表心エコー、術中経食道エコー所見、遠隔期の生存、心臓関連死、心不全入院歴

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院心臓血管外科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

全ての情報は匿名化し扱いますので個人が特定されることはありません。情報の保管管理、廃棄についても厳重な管理をいたします。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：講師 今水流智浩 研究分担者：主任教授 下川智樹

住所：〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL：03-3964-1211（代表）

帝京大学医学部附属病院 心臓血管外科